

施設機能や規模が焦点

苫小牧市 市民ホール建設検討委発足

苫小牧市

苫小牧市は29日、公募市民と有識者による「(仮称)苫小牧市民ホール建設検討委員会」を立ち上げた。老朽化が進む苫小牧市民会館(旭町)と、周辺の公共施設を統合した多機能型の複合施設建設に向けた市民主体の議論が始まった。焦点は統合する施設の機能やホールの規模。新施設の基本概念(コンセプト)に関する議論から始め、2015年度内に基本構想を策定する。

年度内に基本構想策定へ



市民会館を見学しながら意見交換する検討委員会の委員

る。

委員長は都市空間デザインが専門の北大大学院工学研究院の森傑(すぐる)教授、副委員長は苫小牧商工会議所の志賀勉専務理事が務める。

この日、市民会館で開かれた初会合では、市の担当者が新しい「行政改革プラン」(15年度)に盛り込んだ市民ホール建設に向けたスケジュールとして16年度に基本計画、17年度に基本設計、18年

度の実施設設計をそれぞれ策定し、19年度に着工する段取りを説明。市民会館との統合を検討している施設として築30年以上で近隣に立地する文化会館、科学センター、労働福祉センター、交通安全センターを挙げたが、「これらはあくまで原案で、流動的」と強調した。

意見交換では委員から「不便だった点を改善しつつ、良い面を継承できるようにしたい」「どんな利用を想定するかというソフト面の議論を進めないとハードを決められない」といった声が上がった。

検討委立ち上げに当たって市は、北大大学院工学研究院と業務の委託契約を締結。全国他都市の優れたホールの事例などについて情報提供を受ける他、市が3、4月に行った

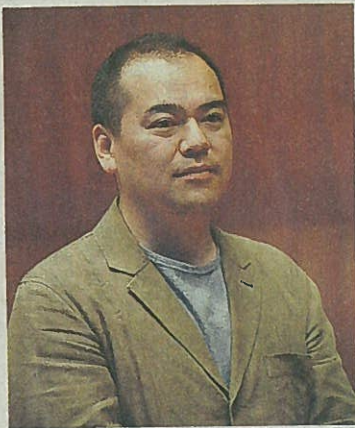
市民会館に関するアンケート調査の分析、市民とのワークショップなどでも協力を得る。
岩倉博文市長は「これから生まれる市民にも喜んでもらえる市民ホールを造っていきたい」と話す。次回会合は、6月下旬を予定している。

市民会館は、コンサートなどに使用できる大ホール(1630席)や会議室などを備えた公共施設。1968年建設で、老朽化や耐震性に問題

を抱えている。市は人口減少を踏まえ、周囲の他の公共施設と統合して建て替え、維持管理コストを抑制したい考えだ。
検討委員会は公募市民や舞台技術の専門家、興業主、吹奏楽団員など7人の委員(任期1年)で構成。新しい施設のコンセプトからホールの規模、機能まで議論し、来年3月までに基本構想を策定す

市民の関心高めるよう議論

委員長に就任した森教授



「市民参加を大切に議論を進める」と森教授

苫小牧市
民ホール建
設検討委員
会の委員長
に就任した
北大大学院
工学研究院
建築都市空
間デザイン

部門の森傑教授(41)は、今後の話し合いについて「広く市民に(当事者として)関心を持ってもらえるよう、進めていきたい」と語る。

市民会館を複合施設に建て替えるに当たって検討委はまず、施設のコンセプト設定から議論に入るが森教授は「利用者とのギャップを生みが出ない、行政主体の議論の進め方は避けたい。代表者として納得できるまで議論を尽くす」と強調。「基本構想の段階か

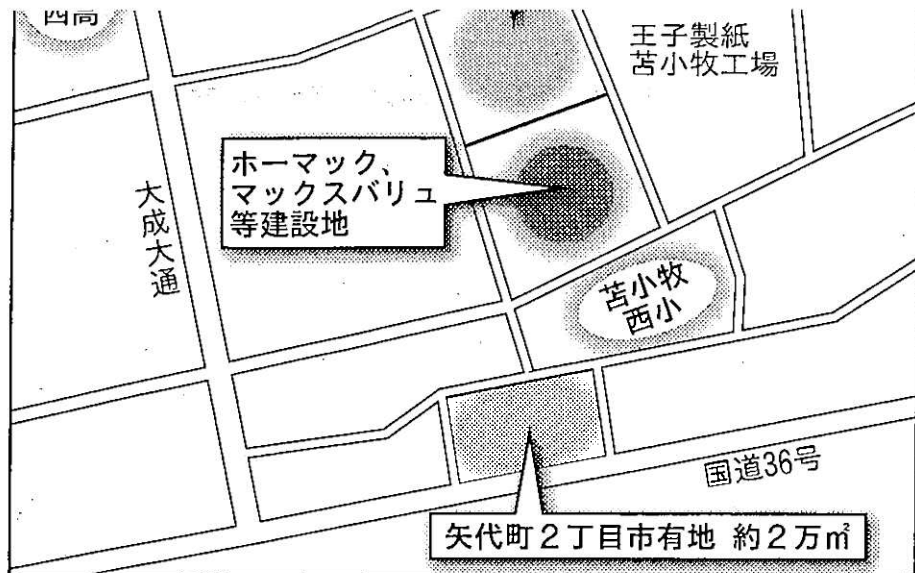
ら、市民に身近に感じてもらえるようにしたい」と述べた。

検討委ごとに議事録を作り、ホームページなどで小まめに情報発信する他、市民とのワークショップ開催も検討している。

施設複合化のポイントについては「異なる利用者層が集まることになるので、1+1が2以上になるような相乗効果も考えたい」と指摘。人口構成の変化をどれだけ想像し議論できるかが重要になるとした上で、「どのような施設を次世代に残したいかという視点を大切にしていこう」と話している。

町地売却に向けて、時期や用途などを検討している。どこから2.5キロの立地。周辺では秋に大型商業施設が開業予定。大きく変わることが見込まれるため、市はその動向を踏ま

西小(矢) 0平方メートル。隣接する王子製紙の土地と交換する形で、13年12月に取得している。市はこのうち約2500平方メートルで公園を整備中。残り2万平方メートルを



矢代町2丁目市有地 約2万㎡

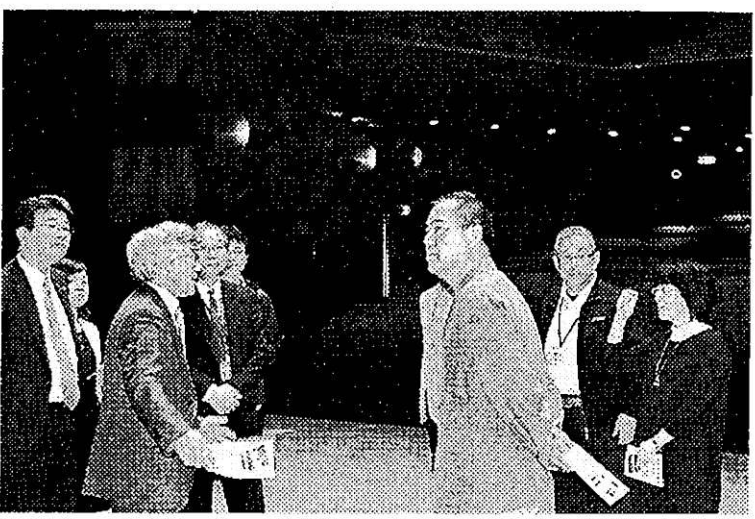
2015年6月2日 北海道建設新聞

戸建て住宅向けにすることが基りそうだが、集合住宅が整備されれば居住人口がさらに増えるため、戸建てエリアと集合住宅エリアの両方を持たせるよう、条件付けて売却する可能性もある。公園整備に当たって土中から重金属が検出されたが、前所有者の王子製紙が8月の完了をめどに土の入れ替えや、公園敷地外も含めた土壌調査を進めている。一方、西小の南側

市の道路専用地域で一居地塊、用途地域を変更していく」と話している。

重複施設の集約視野に

苦小牧市民ホール建設検討委 初会合



大ホールを視察した

約候補として文化会館、科学センター、労働福祉センター、交通安全センターを挙げている。

検討委員会は委員長のほか、音響技術者、コンサルタントなどの企画会社代表、経済団体幹部、公募市民ら7人で構成する。初会合では、市の担当

【苦小牧】苦小牧市民

会館の建て替えに向け、コンセプトなどを検討する仮称・苦小牧市民ホール建設検討委員会の初会合が5月29日に開かれた。北大大学院工学研究院の森傑教授が委員長に就任。市は2019年度の着工を視野に入れており、同委は15年度に基本構想、16年度に基本計画を打ち出す方針だ。

大ホール(RC一部S

造、3階、延べ5871平方メートル)や小ホール(同、延べ3098平方メートル)などで構成する旭町3丁目にある市民会館は、1968年開館。老朽化と耐震性の低さが課題となっている。市は建て替えに当たり、周辺で老朽化し機能が重複している施設を集約し、市民ホールとして建設することを検討。集

【小樽】建

墜落防止など重

建災防小樽が通常総

会は5月29日、や、切れ目ない援、ライフワームの実現などに目。また、生涯実現については、単身化を地域け止める包括ケム構築や、地点施設を生かす援機能の複合化、活動への参り、ライフスマ。有識者会議は市内の産業・短